

【ねがいましては】

令和2年12月25日

KYOWA SCHOOL

第361号

「生まれ変わる」

ある日の高校生オンラインの記事です。

ある日のこと、ひとりの女子高校生が駅のホームで電車を待っています。内心、座れたらいいなとおもいながら……。そこへ電車が入ってきます。目の前には6人ほどが並んでいます。ドアが開き、車内へと入ると、扉のすぐ近くの端の席が空いていました。ヤッターとばかりに座ろうとすると、その席にはビールの空き缶が放置されていました。その子はどうしても座りたかったので、ビールの空き缶を持って、ゴミ箱を探すため一旦電車から出ました。近くには、ゴミ箱も、ゴミ箱付きの自販機もありませんでした。しかたなく缶を持ったまま車内に戻ると、缶があった席にはすでに別の人が座っていました。偶然もうひとつ空席を見つけたので、今度は缶を持ったまま席に座ろうとしました。最寄りの駅で捨てればいいと思ったからです。「勘違いされちゃうよ」と、となりの席の男の人が、「女子高生がビールの空き缶を持っていると勘違いされてしまうから、捨てておいで。席は自分が見ているから」と声をかけてくれました。彼女の一連の動きを見ていたようです。その子はお礼を言って、空き缶を捨てに行きました。電車に戻ると、男の人は自分の荷物を私の席において、とっておいてくれました。感謝のこぼれを言いながら座ると、「他の人のために行動したあなたに感動して、席を確保してあげようと思ったんだよ。素晴らしいことだ」と、言ってくれたそうです。本当は座りたかっただけなのに、こころがくすぐったい……。

その子はその行動を見てくれ、そのように思ってくれた人がいた……。それが嬉しかったんですね。

それまでどちらかというと引っ込み思案であり積極的ではなかったその子は、そんなことがあってから、前からきかないと思っていた、部活でよく使うトイレを自ら掃除をするなど、少し変わったそうです。

この高校生のその時の心中は、心臓がバクバクと波打っていたのかもしれませんが。高校生が飲酒……。傍目から見ても誰もがそう受け取ってしまうでしょう。そんな勇気をそっと見つめていてくれた人がいた……。

本心は、ただ座りたかっただけ、別に見ていてほしかったわけでもなく、褒めてもらうことを望んでいたわけでもないこの出来事に、本人が一番驚いているのかもしれませんが。缶を捨てようとしただけ……。ただそれがビール缶だった……。

ほんの少しの勇気を、身近なところでそっと見つめていてくれる人がいた。そっと目を細めて見ていてくれる人がいた。それだけで、自分がまるで生まれ変わったようなそんな気持ちになることができます。

子どもたちは真剣に生きようとしています。真剣に生きようとしているからこそ、そのわずかな、いや、他人から見ればわずかなことなのかもしれませんが、その子自身にとってはとても大きな出来事になります。

「席はとっておいてあげるから、捨てておいで。」

全くの赤の他人との出会いが、この子の心中に劇的な変化を起こしました。この子のその瞬間からの生き方に変化が生じました。

私の生活の中、毎日のように車の運転があります。横断歩道にさしかかります。ランドセルをしょった小学生がお辞儀をしながら横断していきます。スマホを見ながら、何の変化もなくのんびりと渡る成人もいます。こちらを見ることもなく……。「止まれ」の標識がありながら、「ビュッ」と、左右の確認もせずに横断していく自転車もいます。灯りもつけず、スマホ片手に逆走している自転車もいます。

皆、見えています。私たちはそんな街で暮らしています。(どんな街で暮らしたいですか?)

私の了見が狭いのでしょうか。そんな人にたったひとり出会っただけでも、何か寂しさを感じてしまいます。

オレがオレが、わたしがわたしがと、自分だけ得すれば良いと、知らないうちに利己主義的感覚におおわれてしまっている方があふれているように感じてしまいます。そんな中、この高校生のとった行動は、とてもほのぼのとさせられました。

学校生活の中でも、何気ない思いやりを感じながら生活できたらいいですね。いつも消しゴムを複数持ち合わせる子。赤青鉛筆を複数本持ち歩く子。ハンカチやティッシュを複数枚持ち歩く子。手洗いの時、いつも一番後ろに並ぶ子。部活動の後片付け、いつも最後になる子。

何気ない思いやりを周りに感じさせることなく、持ち歩く子。そんな子たちで溢れかえる学校があったら良いですね。

今日も勉強が終わりました。このちっぽけな空間で学んだ子が消しかすを手のひらにかき集めて捨てています。下駄箱から他人のくつを出し、そっと並べておいてくれる子がいます。

皆さん、「ひと」だね。「ひと」だったんだね。ありがとう。